

IUHW



34号

The gazette of International University of Health and Welfare

日本で、世界で、ボランティアの光、広がる。



特集

国際医療福祉大学の国際活動

インタビューシリーズ
国際ボランティア

国際部部长

国際交流委員会委員長

長谷川豊 教授

田中美子 教授



発行：学校法人国際医療福祉大学 平成12年10月20日
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線8116
ホームページアドレス <http://www.iuhw.ac.jp>

長谷川先生 田中先生に聞く

平成十二年九月二十一日収録
(聞き手 広報委員 長宮尾洋子)

本日は長谷川先生と田中美子先生においで頂き、本学の名称に冠している「国際」の意味、実際にどのような活動がなされているのか、国際的であるということ、国際性とは何かなど幅広くお話しして頂きます。



長谷川先生



田中美子先生

長谷川先生は、一九九七年医療福祉学科の発足と同時に教授になられ、国際部の部長として活躍中です。田中美子先生は語学教育センターの副センター長で英語科の教授、また初年度から国際交流委員会の委員長として国際ボランティア、海外研修プログラム等を立ち上げ、実施されて来られた方です。

まず国際部、国際交流委員会は組織としてどのように関連しているのでしょうか。仕事の内容が重なるとは思いますが、どのように仕分けしているのでしょうか？

長谷川：国際部は事務局の組織の一つです。大学の国際関係の仕事を事務的に担当し、実施しています。

国際交流委員会の方は？

田中：発足当時の二年間は国際交流委員会しかなかったんです。長谷川先生のご着任と同時に国際部ができました。理事長から国際部と国際交流委員会の職務、分担あるいは協力関係をどのようにするかを特に考えるよう言われました。今は、国際部と国際交流委員会はある意味では表裏一体であると理解しています。国際交流委員会は主に学生と関わる仕事をしていて、その事務的なサポートを国際部からいただいています。本学全体の国際的な研修員の受入れですが、色々国際的な企

画は国際部の方でいたしております。ですから、国際部で受入れたもので学生に関するものと、国際交流委員会が窓口になって学生に伝える、という活動分担になっております。

長谷川先生は、数日前にケニアから帰られたばかりと伺いました。お疲れのところありがとうございます。長谷川先生に今回のJICAとの協力活動、それからの今のお仕事についてなど伺いたのですが、先生はもう何度モケニアに行かれて、現地の保健医療についてはお詳しいと思いますので、今現在を語っていただきたいと思います。

長谷川：今回で六回目になります。一番最初は一九八〇年にWHO勤務の時に参りました。その後本学に参りましてからJICAのプロジェクトと厚生省の研究調査で計五回行きました。JICAのプロジェクトは、通常二つの機関が協力して技術支援をすることになっており、このプロジェクトでは本学と厚生省の国立公衆衛生院の二つの機関が、KMTCC(ケニア医療訓練カレッジ)の教育レベル向上を目的とした支援を行っています。KMTCCは、ケニアにある本学と同じような医師以外のコマディカルの医療技術者を教育している短大レベルの学校で、財政的な問題で設備も古く、十分な教材もなく、教員のレベルも不十分ということで、そのアップグレードのため五年間の協力をしています。今年で三年目です。本学からも看護学科長の荒井先生、情報メディア部長の細井先生が短期専門家として指導に行かれたり、毎年数名のKMTCCの教員の方が来学し、勉強して帰っていただいています。

何度モいらしてケニアの国情とかナイツロ近辺とか何かこのところ変わったというようなことはどのようにならなっていますか？

長谷川：最初に行った二〇年前は、一人で町の中を歩いては何の問題もなかったのですが、最近では治安が悪くなって、JICAの事務所では絶対に一人では外出

しないように、夜は外出しないように、必ず車で出かけるようにといった指示を出しています。

そいう治安の悪いところでJICAの関係の方々はこの努力なさっているわけですが、実質的に保健医療に関しては効果の程はいかがですか？このプロジェクトに限らず言えば、三年目に入ったところですが、例えばコンピュータの利用の分野では非常に目覚ましい協力効果が見られています。最初の現地でトレーニンングコースに参加してマスターした人達が、次の世代の人達に教えるという人たちで、技術を習得した教員の方がどんどん増えていきます。

長谷川：こちらで研修を受けて帰った方は十名を超え、本学から短期専門家が行くの大変懐かしがってくれて、パーティー等を開いて大歓迎してくれます。

田中：補足させていただきますと、長期専門家として赴任されている山崎統四郎先生のご尽力も非常に大きいと思います。

また、大学が非常に温かい受入れをしているということも、研修員からの評判がいいと聞いています。

田中：それも国際部、国際交流委員会をはじめ色々な方の温かい配慮の成果だと思っておりますが、ここでもっとも話題を変えまして、田中先生が始められた国際ボランティア活動、今年で四年目です。行先も四カ国と発展してきていますが、この経緯についてお話しします。

まず、学生から海外で活動できるプログラムを作ってほしいという強い要望が動機で、大学が軌道にのった三年目には是非実現したいと考えていました。問題は学生が活動できる派遣先を見つけることでした。丁度その時期、ベトナムのチョーライ病院でのJICA技術協力プログラムが進行しており、医療経営管理学科の紀伊国学科長と高橋淑郎先生が関わっておられ、ご紹介いただきました。来日された病院長やスタッフの方に大学にも来ていただき、ボランティア活動実現の運びとなりました。一年目はベトナム一カ国、二年

田中：その活動は中国、アメリカを含め三カ国へと広がりました。TAO通信・放送機構との提携プロジェクトによる教育プログラムの開始に伴い、北京のハビリーション研究センターと大学との間で協定が結ばれ、センターからの留学生を受け入れるのと同時に、本学学生の研修プログラムを受け入れていただけることになりました。もう一つはワシントンDCのプロジェクトで、中の看護学科住吉蝶子先生の仲介で始められることになりました。三年目となる一九九九年には、もう一カ国先進国を入れたということで、オーストラリア研修を増やして四カ国に発展し、本年に至っています。

それから、文部省からの補助もおりたのでした。文部省の特色ある教育・研究の推進に対して行われる「私立大学等経常費補助金特別補助」です。プロジェクト名は「医療福祉のボランティア活動実践を通じた国際理解教育」とい、大学からの活動援助費の半額を補助金でまかすことが出来ました。決定はまだですが、今年もこの補助金が受けられることを願っております。今年も活動として四年目になります。ベトナムのチョーライ病院、北京のリハビリテーション研究センターは同じです。アメリカはハワイ州ホノルルにありましてクワキニ・ヘルスシステムでの活動



JICAとは・・・ Japan International Cooperation Agencyの略で国際協力事業団のことです。

となりました。クワキニは元々一九〇年代の始めに日系人のために作られた病院で、現在はナースングホーム等大きなヘルスシステムに発展しています。そのナースングホームでボランティアをさせていた。また、オーストラリアは、TAFEゴールドコースト校のヘルスケア、高齢者介護をテーマとしたプログラムにこちらの希望を入れていただき、ホームステイを含めた研修となりました。非常に画期的な事から、この海外プログラムが平成十二年度から単位認定科目として発足したとです。教務委員会と国際交流委員会とが協力して、事前教育を含めたプログラムとなりました。

それその国によってプログラムも違っている訳ですね。それを先生が全部コーディネートなさって学生を募集、教育して送り出して、その後のフォローもなさるといふ大変な努力だったと思います。全体の学生数から言えばほんの一握りの学生達かもしれませんが、国際的な場面で経験してくるといふことは大変意味のあることで、若いうちに短期間ではあれ、異文化の中で生活してくるといふことは学生の一生の中でとても意味のあることだと思っているんですが、学生達のリアクションはどうなのでしょう。どんなことを学んでいきますか。



構築しないといけないものなので、そのような今までの無い経験をするのが喜びのようです。先程宮尾先生からも参加は一握りの学生と指摘されましたが、このプログラムで実際に海外に行つて研修、ボランティアをする学生数には限りがあります。それは経費がかかるといふことで、少しでも経費を低くするための努力をしております。国際交流委員会としましては、できるだけ大学全体に国際的な風土といえますか、異文化の香りを少しでも広めたいといふことで、これ以外にも全学向け活動をしていきます。例えば、海外から来られた教員、JICA関係の研修員の方々と接触する機会、講演会とか講義という形で機会を作っています。青年海外協力隊の帰国隊員報告会も既に二回開催させていただきました。こういった生の異文化体験あるいは医療福祉関係者の実体験を広く報告していただく機会を多く作りたいと思っております。

現在受入れている留学生について、特に国際部、国際委員会の受入態勢についてお話しください。

国際部は事務局の一部として、留学生の受入れの最初の入国手続きなど事務的な手続き、宿舍等の手配などを行っております。留学生が大学や地域に溶け込めるよう努力しています。迎えを含めて、このキャンパスの学生となるまでを国際部の方々に献身的に世話していただいています。学生と

なつてからの教育は各学科と教務委員会が主導でケアをしていたらいいと思います。国際交流委員会としては、学生課と一緒に、学生が気持ちよく滞在できる環境を整えることを心がけています。また、学生の日本語力が教育に追いついて行けるように見守っていることも柱の一つです。学生が生活に溶け込めるように、三年目からホストファミリー制度を作つて、教職員の方々に留学生の生活面の相談に乗っていただくようにしています。学生の最低の二ドは国家資格を取得することなので、日本語力アップのために、大学のお計らいで開学三年目から日本語の講義ができるようになりしました。現在二人の非常勤の先生に献身的な日本語の講義をしていただいております。新カリキュラムでは語学教育の必修と選択科目に日本語教育を入れていただいております。大田原市、西那須野町等の国際活動との連携はどうなっているのでしょうか。

大田原市には「大田原国際交流会」があり、親密なお付き合いをさせていただいております。最近では、交流会がホームステイで受け入れた韓国中高校生のための通訳を学生がして、喜ばれました。また、大田原市の中国視察団の来訪に際し、学生がお手伝いしました。大学と地域が一体となって開かれていくことだと思いますが、来年は医療福祉学部の完成年度でもありますし新しい世紀の始まりにあたり何か新しいプロジェクトを考えていらいらっしゃいますか。本学の国際活動についてどのような夢がおありでしょうか。

ある程度具体的な点としては、医療福祉学部の修士課程の中で「医療福祉国際協力研究」という専門科目を今文部省に申請中です。これまで国際協力研究という科目がなかったため、これが認められれば、大学院で国際研究が進められるというささやかな夢を持っています。

田中先生はいかがですか？
田中：学長がよく言われておられるように、健康者も障害者も、国籍、言語、習慣の壁を越えて「共生社会」がキャンパスに実現するのが最大の夢です。そのためにも、単位の互換制度を確立して

欲しいですね。この制度が確立しますと双方で短期留学も可能です。互換制度の確立には大学間の協定が必要で、教務委員会が中心となって対応しておられるので、近い将来実を結んでほしいと願っています。アメリカやオーストラリア、イギリスなど英語圏の国からの学生さんもこの大学に来て単位を受けて本国へ持ち帰って単位とする、それと同じことが本学の学生でもできるということになります。ただ、その場合には語学、言語を何にするかということの問題になります。日本語のできる欧米の方たちが互換制度で来学されることは非常に稀だと思いますが、こちらの学生は英語さえできればこの互換制度を使う英語圏へ行くことは可能になるという事です。ぜひともこの制度を確立して短期でもいいうのがひとつの夢です。それから、このキャンパスにもっと留学生が増え、日本の学生と一緒に教育を受けてほしいと思っております。留学生を受入れるシステムが確立するのを願っています。では最後に、国際的であるといふこと、国際性についてどのようにお考えでしょうか。

個人的には国際的な場面であり先入観をもたないようにはなりたいとは思っています。英語に限らず、その地域の言葉を含めて意思疎通についてできるだけ努力するといふことが重要だと思います。

自分でも心を開いていくときに、そして相手の心や意志を汲み取るのに言葉が重要であるといふことですね。大きく言えば、日本人全体の課題ですが、このキャンパスでもせめて国際語といわれる英語ができる学生さんが増えてほしいです。若い世代の人たちはほとんどに純粋で、国境を越えて奉仕したいという善き意志とエネルギーに溢れています。それを伝える言葉を獲得してほしいのです。もちろん英語だけでなく、現地の簡単な日常の挨拶ぐらひは気軽に使いこなせる柔軟性を身につけてほしい。柔軟な考え方や態度、これが国際性の基礎ではないかと思うのです。
お疲れのところ、長時間ご協力いただきましてありがとうございます。

弔辞

医療経営管理学科
川北祐幸先生（享年七十四歳）を悼む



故 川北祐幸教授
平成12年7月20日 御逝去

た先生を誰も憎むことは出来ませんでした。しかし先生は気の優しい人でした。含羞の人でした。日本病院管理学会の初代の理事長選挙のとき、どうしても同票となり再々投票になった時、日本大学の三宅史郎先生が「川北先生一体誰に投票したの」と聞かれたとき、「いや、恥ずかしくて相手の名を書いたよ」との答えに皆哑然としました。川北先生の美学でした。

大谷藤郎学長から日本で初めての医療経営管理学科の設立を手伝うよう命じられたとき、早速先生にお電話して、助けて頂きたいと申し上げたところ、何の条件も聞かずに快諾して頂きました。開設が二年遅れても一言の文句も云われず協力して頂きました。学生への指導は厳しく妥協されませんでした。教授が終わると「オイ飲みに行こう」と誘われ、学生を大変に愛され、学生も先生を心から尊敬しておりました。医療経営管理学科の学生が素直だと云われるのも先生の御努力の一環だと信じておりました。先生は学生を愛していらつしやいました。去る六月六日と七日両日恐らく大変にお苦しかったと思いますが、栃木県の大学にわざわざ来てくださり、私達教員に会って頂き、学生とも会って頂きました。今にして思えば、川北先生はサヨナラを云いいらつしやつたのではないかと思われまます。先生の強い意思なしには行えなかったことと改めて感激しております。

先生との出会いは、今から三十年以上前、先生が順天堂大学の細菌学助教授から守屋博先生のもとで病院管理学の道を歩み始めた時でした。有山登理事長のおめがねに叶い、歴史ある大学の講座のために私の勤務しておりました病院管理研究所に勉強にいらした時、年下の私にご丁寧に「教えてください」と云われたことを思い出します。それから長くお付き合いをいただきました。

先生は礼儀を重んじ筋を通す人でした。日本酒しか飲まれなかった先生。ピースの両切しか吸わなかった先生。「フィルタ付きはタバコじゃない」が口癖でした。ルールを守る先生でした。大学の業務の進め方に筋が通らない時には、誰にも遠慮することなく発言を続けられました。

口の悪い人、毒舌家とも言われました。大学の女性の先生方と食事している時、お酒も入ったせいか「オイ、バーサン」と発言され、気の弱い私をオロオロさせた先生でした。しかし何ら悪気はなくカラツとした。

先生本当に有難うございました。どうぞ安らかにねむり下さい。同時にともすればスジを通すのを忘れ、権威主義に流れ、教育の本道を忘れ、愛情よりも打算を考えがちな心は何をしているのだと一喝して下さい。心からお願ひ申し上げます。最後に残された御家族御一人御一人に癒しの早からんことを祈り上げます。

平成十二年七月二十三日

国際医療福祉大学 紀伊國献三

トピックス

平成十二年度 大学研究発表会 成功裏に終わる

去る八月三日、平成十二年度国際医療福祉大学研究発表会が行われました。発表者は主に本学の学内研究費交付者が対象となりましたが、本年は件数も多く四つのセッションで合計三十九の研究発表が行われました。



挨拶される藤田郁代先生

第九回 「言語障害臨床学術研究会」開催

平成十二年七月二十二、二十三日の二日間、国際医療福祉大学において、言語障害臨床学術研究会が開催された。この会は故福迫陽子先生のご提案により一九九一年に発足したものである。言語聴覚障害学科長伊藤元信先生は本会の運営に携わってきた世話人の一人であり、同科藤田郁代先生は本年年度の会長を務めた。二日間にわたって活発な討議が行われる中、本学科三年、四年生ならびに卒業生も多数参加した。

本会では、毎年度最も優れた研究発表に対し、賞を授与している。本年度は奨励賞という形で、現職のSTが受賞した。

将来、本学科卒業生もこのような会で意欲的に発表を行い、資質向上に努めていくことを期待したい。

(西尾正輝、菅野倫子)

本年から司会の先生をあらかじめ選定した影響もあり、各セッション（十五名から四十名程度の参加者）の間では、専門的な質疑応答が行われました。とくに若手や中堅の先生の参加が目立ち、学術的な交流と水準向上にとても有益な成果が得られたものと思えます。(FD小委員会・矢野 聡)

「ご存じですか? オトナの試験」

オトナの試験 という番組をご存知ですか? 日曜日の午後十一時少し前にNHKの総合テレビで放映されている十分間のミニミニ番組です。この番組は、NHK名古屋制作で、国家および民間資格、技能試験、検定試験などを紹介しています。これまでに、医療・福祉分野では、「作業療法士」「看護士」が紹介され、今回、「言語聴覚士」が取り上げられることになりました。言語聴覚障害学科が取材に協力しました。ベテランの言語聴覚士の技術、患者さんとのコミュニケーションの取り方などを、失語症の患者さんと言語聴覚士の交流を通して描きたい、加えて、来春受験を控えている四年生にも出演したいという制作者側の意図に沿って取材・撮影が行われました。その結果、植田恵講師と彼女の患者さん、四年生の大谷ひでこさんの出演による、短いが中身の濃い番組が出来上がり、八月二十七日に放映されました。学科に収録ビデオがありますので、是非ご視聴ください。



内秀子(おおやち) ひでこさんの出演による、短いが中身の濃い番組が出来上がり、八月二十七日に放映されました。学科に収録ビデオがありますので、是非ご視聴ください。

(言語聴覚障害学科 伊藤元信)

部会・委員会報告

ボランティア委員会

新設の「なす療育園」那須療護園へ学生ボランティア

の参加を呼び掛けたところ予想以上の反響があり九十名という多数の登録を得て、いよいよ夏休み入りの八月一日から活動が開始されました。幸い、「一見さん」というベテランのボランティア・コーディネーターが毎週・火曜日と木曜日の二日、ボランティアセンターに勤務して下さり、順調にスタートしました。活動の内容は、朝食(朝顔グループ)・昼食(花水木グループ)・夕食(ひまわりグループ)・介助、居室介助(桜グループ)、外出介助(風花グループ)、洗濯たたみ(タンポポ・コスモスグループ)などです。

休み明けの十月からは、これらの活動を充実軌道に乗らせ、さらにメンバーの追加募集も検討しています。毎月、第二火曜日の昼休み、F201で例会を開きます。(鈴木五郎)

就職委員会

求人数、前年を上回る

九月十一日、就職委員会を開催。本年から医療福祉学部の就職活動も開始された事に伴い、八月末現在で二、一八八件、一五、一八三名の求人情報が寄せられており、前年同期の一、六二二件、一〇、二二六名を大きく上回っている。

保健学部は、実習期間中で本格的な就職活動は秋以降になる。医療福祉学部のうち医療経営管理学科は病院を中心に半数以上が内定、医療福祉学科では病院から医療ソーシャルワーカーの求人が予想以上に多数寄せられているが全体としては秋以降の取り組みになる。

今後の予定としては、十月二日(月)に三年生対象の「就職ガイダンス」、十月下旬からの毎週土曜日の「公務員受験対策講座」(全十回程度)、十一月の「就職ガイダンス」(二回目開催)などを計画している。(鈴木五郎)

国際部・国際交流委員会

- 一、本年度第一回留学生懇親会を、七月五日レストランで開催しました。オーストラリア、グリフィス大学、ゴールドコースト校 Deborrah Money 講師を迎え「ターミナルケア」についての講演会を七月十一日E301・302教室で開催し、約五十名の学生・院生・教員が参加し、熱心に講義を受けました。多くの質問がなされ、非常に盛会でした。
- 二、十二年度夏期海外研修活動の記者発表・結団式・壮行会が七月二十九日に行われ、三十一日出発。八月十四日全員無事帰国しました。(特集六頁から九頁)
- 三、笹川記念保健協力財団主催「国際保健協力フィールドワークフェロシッピング」の国内研修(八月一日、二日に各学科から七名、海外研修八月三十一日)に竹田千鶴子さん(福祉三年)(報告九頁)が参加し、有意義な研修をさせていただきました。
- 四、JICAケニア医療技術教育強化プロジェクト研修員 Watanaka 氏が本学で研修(七月十七日、八月十一日)しました。(田中美子)
- 五、JICA短期専門家として細井良三教授がケニア KMTCC へ出張(八月二十日、九月十八日)しました。
- 六、第四回紀要委員会を七月二十五日(火)、第五回を八月二日(火)、第六回を九月十九日(火)に開催いたしました。今回も論文投稿上の注意を記述いたします。最近の研究活動は複数の人の共同によって行われる場合が多いことから、論文も連名で書かれることとなります。このとき、筆頭著者は連名となる共著者の了解を得ていくといはけません。連名ということはその研究と論文内容に永久的な連帯責任を持つことを意味します。著者の順序も非常に重要です。研究および論文に対する貢献度の高い順とするのが一般的です。義理や人情で順番を逆転させてはいけません。(野原功全)

紀要委員会

第四回紀要委員会を七月二十五日(火)、第五回を八月二日(火)、第六回を九月十九日(火)に開催いたしました。今回も論文投稿上の注意を記述いたします。最近の研究活動は複数の人の共同によって行われる場合が多いことから、論文も連名で書かれることとなります。このとき、筆頭著者は連名となる共著者の了解を得ていくといはけません。連名ということはその研究と論文内容に永久的な連帯責任を持つことを意味します。著者の順序も非常に重要です。研究および論文に対する貢献度の高い順とするのが一般的です。義理や人情で順番を逆転させてはいけません。(野原功全)

学生課から

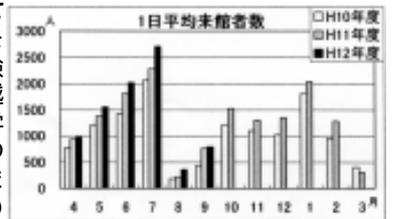
1. 学生よろず相談を「学生相談室」と改称して、業務を開始しましたのでご利用ください。心の相談など様々な相談に臨床心理士が対応いたします。業務時間帯は月・水・金曜の午前10時～17時(受付は10時～16時30分、13時～14時はお昼休みです) 相談受付はL棟(大学院棟)の学生課で行っています。
2. 定期健康診断の結果が出て「要再検」と判断された方も多かったと思いますが、本学の役割を考えると健康の維持は大変重要ですので再検査は必ず受診してください。最近実習の際に健康診断書の提出を求められるケースも出てきていますので、「要再検」でなかった方も自己の健康管理には十分注意してください。

お知らせ

図書館だより

図書館入館者のお知らせ

図書館入館者(一人複数回を含む)は、定期試験や国家試験の時期に1日平均2500人を越えピークに達します。他大学に比較しても非常に多くの方々にご利用いただいています。(飯沼一浩)



大学来訪者

平成12年度前期視察者一覧

4 / 7	中国リハビリテーション研究センター
4 / 26	静岡県熱海市議会議員
5 / 15	栃木県都市統計事務研究会
5 / 18	国立療養所栗生楽泉園
5 / 18	栃木県立今市高等学校 教員
5 / 20	世界作業療法士協会
5 / 31	栃木県立日光高等学校 教員
6 / 1	茨城県立八千代高等学校 教員・生徒
6 / 6	愛知県豊川市 市長他
6 / 8	大阪電気通信大学 理事長他
6 / 15	大田市立若草中学校 生徒
6 / 16	福島成蹊女子高等学校 教員・生徒
6 / 20	埼玉県立久喜北陽高等学校 教員・PTA
7 / 5	栃木県立今市高等学校 教員・生徒
7 / 6	つくし共同作業所 所長他
7 / 7	茨城県笠間市 助役他
7 / 10	福島県須賀川市議会 議長他
7 / 14	栃木県総合教育センター
7 / 14	韓国ソウル保健大学他一行
7 / 18	福島県立あさか開成高等学校 教員・PTA
7 / 21	帝京平成大学
7 / 24	聖隷クリストファー大学
7 / 29	韓国人中・高校生
8 / 7	オーストラリア・ゴールドコースト TAFE
9 / 12	栃木県立野沢養護学校 教員・PTA
9 / 22	栃木県高等学校教育研究会 商業部会

同窓会から

同窓会報「とちの木」第2号ただいま作成中！！

現在、同窓会では同窓会報「とちの木」2号の作成に取りかかっています。同窓会の事業運営に関する記事はもちろんのこと、社会人としてがんばっている同窓生の現況報告や大学からの連絡等を盛り込んだ会報になる予定です。それに伴いまして同窓生の結婚、ご出産の情報(お祝いのメッセージでも良いです) 同窓生やお世話になった先生に伝えたい情報等を募集しております。何かございましたらいつでも同窓会事務局までご連絡ください。

同窓会事務局(国際医療福祉大学)

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1
 TEL: 0287-24-3003 FAX: 0287-24-3100
 e-mail office@maronie.uhw.ac.jp
 ホームページ http://www.maronie.uhw.ac.jp/

ンティア

2000年度
「海外保健福祉事情」
「海外研修」参加学生（計50名）
活動期間
平成12年7月31日～8月14日

ィア活動。今回参加学生の生の声を聞きました。是非ご一読ください。

アメリカ ハワイ州



▲高齢者の方々を楽しませようと活動中の学生

ハワイ州のクワキニ病院で、私達はボランティアとして参加しました。ボランティアには細かい規則が多くあり、スタッフとボランティアの仕事が明確に区別されています。責任を重視するアメリカでは、資格を持っていないければ水でさえも勝手に患者に飲ませてはいけません。非日常的なボランティアという経験は私達にとって新鮮かつ驚きの連続でした。最後まで私達を温かく見守って下さったスタッフの方々、先生、そして両親に心から感謝いたします。（看護三年坂本泉）

クワキニ病院での研修報告

池松先生率いるアメリカグループのメンバーは計五名、個性のある楽しい仲間と二週間の研修に行っていました。研修先であるクワキニ病院は日系二世の方々が発立した病院で、私達はボランティアとして参加しました。ボランティアには細かい規則が多くあり、スタッフとボラン



▲お年寄りのためにスタッフと一緒にクッキング

初めての異国体験
僕にとって初めての海外だったので、上手く会話できる不安でした。でもこの研修活動を通して、会話は言葉だけじゃないということを知りました。そして、相手の目を見て相手のことを真剣に理解しようとする気持ちや人とのコミュニケーションには大切であることを学びました。



▲ホストファミリーと一緒に

オーストラリア研修を終えて
出発前、行き先が四カ国中から選択だったので、自分の興味ある国に決めたいと思いつつ旅費の格差に迷っていました。でも、オーストラリアにして正解だったと思います。もちろん他の国でも各々の良さはあったと思います。私の一番知りたかった福祉の分野では高齢者の在宅ケアが充実していて羨ましく思いました。と同時に、我が国の介護保険の未熟な点に気づかされました。

最先端の医療機械、技術はもとより、患者さんの入院生活の豊かさ（ベッドサイドの広さ・窓からの眺め・可愛いカバールのソファ・リラククスできるお部屋の工夫など）環境作りの良さは抜群でした。懇談会では、私達の質問に的確、丁寧に説明されたのに対し、逆に質問された時何も答えられず、自分の不勉強と看護に対する関心度が低かったことに恥ずかしい思いでした。

ゴールドコーストの看護婦さんの日々努力されている姿を目前にして胸が熱くなりました。この思いをいつまでも忘れずに今後の実習等に生かしていきたいと思っています。今オリンピック中ですが、私の夢は医療福祉のオリンピックが開かれたら、出場できるようにしたいです。短期間の研修を終えて、自分自身を向上させる意義のある貴重な体験でした。

話は変わりますが研修最終日に現地地で思わぬ嬉しい事が我々オーストラリア組にはありました。それは理事長ご夫妻がお食事を開いて下さり、楽しくお話を聞き、またお料理が美味しかったことです。（看護二年根岸葉子）



▲修了式後に記念撮影

オーストラリア

ゴールドコースト

特集

国際ボラ

国際医療福祉大学の特徴でもある国際性。その一つである国際ボランティア

初めての中国、初めての研修を終えて
私達は二週間、中国康復研究中心で研修を行いました。言語療法科では、失語症患者や脳性麻痺児を中心とした検査や治療を見学させていただき、実際に患者さんと間近に接することができました。時に、先生から「この患者さんの検査をしてみてもいいわね、検査道具がない」とあわてもしましたが、何事も応用だということを使い、今手元にあるものを十分に活用して十分な検査を行うという「柔軟性」の大切さを感じました。かなりハードな日程の中で体調を崩すものが多いでしたが、無事に全員帰ってこれたことが一番の喜びです。(言語二年 小林基子)



▲STの先生と一緒に



▲学大人と龍大人?

ハブニング多き二週間
中国で過ごした二週間は、まさに波瀾に満ちたものだった。一人の学生(この人の腹は何でできているのだろう)を除いて全員(先生も含む)が腹痛おこすわ、便所に扉なくてみんなカルチャーショックだわ、遠出すりやあバスの運ちゃん道に迷うわ、バスは高速道路で止まっちゃうってみんなで押すハメになるわ、しまいにや引率のT先生は倒れちゃうわと、数えあげればまだまだいくらでもでてくるほどハブニング多き研修旅行であった。
しかし、この研修旅行では学ぶことも多く、ハブニングもあつたからこそ楽しかった。けれど、帰りにビザの不備が見つかった、なかなか飛行機に乗れなかった時はびびったなあ。(看護二年 加藤字)



▲脳外科病棟のNSの方々と、記念に1枚

ベトナムの人々から学んだこと
ベトナムで過ごした二週間は、毎日が刺激的でとても楽しかった。香草料理が苦手でも何度もお腹を壊してしまっただけで、そんな失敗談も、今となっては良い思い出だ。ベトナムの人々はすこく明るくて、いつも笑っていたように思う。実習で、言葉が通じず、自分の話したいことの半分も伝えられない状況でも、ニコッと、お互いに笑顔を見交わすだけでその場の雰囲気は和み、彼らから「笑顔の魔力」を教えてもらった。言葉の壁は確かに大きいけれど、それ以上に、笑顔などの非言語的コミュニケーションは大きいということを、改めて実感することができた。これから始まる実習で、彼らから学んだ笑顔を生かして、患者さんと良い関係を作りたいと思う。(看護三年 高原由香里)

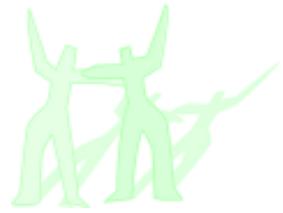


力強く生きる子供達
ベトナムは経済成長が著しい国だが、その一方で貧富の格差の問題もある。その為、ベトナムには様々な実情に置かれた子供達が大勢いる。私は今回の研修でたくさんの子供達と接する機会を持つ事が出来た。スラム街に住む子供達、物乞いに来る子供達、夜遅く迄働く子供達、その他様々な子供達を見た。しかし、子供は何でたくましかったのだろう。彼等が確かに貧困という厳しい状況の中で生活をしているが、その目は純粹で無邪気だった。ベトナムの子供達とサッカーをしていると日本の子供達の姿がオーバラップしてくる。彼らはどんな境遇に置かれていても子供らしく明るく生きていた。(福祉三年 小原直人)



▲ベトナムの子供達と

ンテイア



それぞれお話を頂きました。



▲会議での研修風景

二週間で十分？ 充分学びました
 ～恐るべし国際の学生～

本研修の特徴は、リハビリテーション専門病院で本格的な臨床実習が実施できたことです。センターには本学で養成される全ての職種が配置されており、各指導者のもとで患者の評価技術を学び、治療場面を見学し、ケース会議に参加し、訪問調査に出向く事ができました。学生は、中国に来てまで予習復習するとは思わなかった、「もっと勉強しておくんだった」、「お水より本をもつてくるんだった」、「腹いてーん、ここはどこと、悲鳴を上げていました、当初戸惑い気味の学生も、知識不足、語学力不足を驚くべき明るさと回復力の早さでカバーしていました。ここで一句、「世間知らずも国際性」。謝辞。(谷口敬道)

中国・中国リハビリテーション研究センター(北京市) 研修活動(17名)

- 看護4年 小原 知絵子
- 看護3年 小山田 夏美
- 看護2年 新井 龍
- 看護2年 加藤 学
- 看護2年 古谷 嘉苗
- 看護2年 美野 真智子
- 看護2年 八巻 佐知子
- 看護2年 山崎 敦子
- 看護1年 嶺 聡美

- 作業1年 糸井 きく
- 言語3年 幸田 尚子(リーダー)
- 言語3年 小林 基子
- 言語3年 長谷部 陽子(サブリーダー)
- 放射1年 青木 鮎子
- 放射1年 小林 英恵
- 福祉4年 柳原 吏子
- 福祉3年 朝尾 公美子

引率教員：作業療法学科 講師 谷口 敬道



▲湯小泉中国リハビリテーション研究センター 所長(中央)と記念撮影



▲宿泊していたホテルからの風景

ベトナムの喧騒

朝からどしゃ降りかと思鬱になりながら夜も明けやらぬ時刻、カーテン越しに下の通りを見下ろす。目に入ったのはひしめくバイクの群れと紫煙の渦、そして爆音の渦だ。ドイモイの拠点南部のホーチミン市は昨日あった店が今日にはない、変化の街だ。戦渦を生きた抜いてきた人々は一時も立ち止まることをしなさいと厳しさの混ざった顔をして国だ。人もなかなかいい国だ。私はそう思う。若い通訳が言った。もう南北の区別はありません。誰もが自分のために他人のことなどかまいません。それがこの国の活力、美しさの源泉なのだ。(中村 勝)

ベトナム・チョーライ病院(ホーチミン市) ボランティア活動(14名)

- 看護3年 内田 怜実
- 看護3年 大山 幸恵
- 看護3年 斎藤 奈緒(サブリーダー)
- 看護3年 高原 由香里
- 看護3年 辻 美里
- 看護3年 成川 佳代子
- 看護3年 原崎 和美

- 看護1年 郷原 志保
- 看護1年 鈴木 孝子
- 看護1年 中村 玲子
- 看護1年 箱崎 有希子
- 理学2年 高橋 万里子
- 作業2年 寺田 玲子
- 福祉3年 小原 直人(リーダー)

引率教員：看護学科 講師 中村 勝



▲見学に言ったテルビン病院の前で



▲実習活動の後に記念撮影

ハワイ・クワキニ
 老人ホームでの
 ボランティア

ハワイのクワキニ・ヘルス・システムはもともと日本人のために作られた慈善病院でした。ですから、今でも老人ホームの入居者の方々はほとんどが日本人で、日常会話は日本語です。ですが、スタッフの方々は若い世代なのでほとんど日本語が話せません。わたしたちは日本語がわかるので、いろいろなお話をして下さいました。皆さん、とてもきれいな日本語をお話になり、自分たちの日本語を反省させられました。(池松裕子)

アメリカ・クワキニ・ヘルス・システム(ハワイ州) 研修・ボランティア活動(5名)

- 看護3年 坂本 泉
- 看護3年 根本 尚子(リーダー)
- 看護2年 郡司 未来(サブリーダー)

- 看護1年 長濱 友美
- 経営2年 菊地 宏美

引率教員：看護学科 講師 池松 裕子



▲最終日に修了証をもらい、ゲーリー梶原院長 兼理事長および関係者と。



国際ボラ

引率の先生方からもそわ

寒くて困ったけど、言葉は平気

南半球の八月は真冬ですが、ゴールドコーストは亜熱帯気候だというので

全員薄着で日本を出国したものの、例年になく寒い冬。凍える思いをしながらも三十キロも続く白い砂浜を散歩し、波打ち際に映える曙からエネルギーをもらって一日が始まります。午前中は英語及び医療・福祉の講義、午後は病院や施設訪問でした。オーストラリアでは特別の認可なしに医療機関でのボランティア活動を行ってはいけないということ、訪問先の患者さんに直接話しかけたり接触してはいけない(勿論、写真撮影は禁止)と言われ、もっぱら見学だけでした。しかしながら、各施設で設けて下さった専門家との交流会で学生達は積極的に質問をし、それぞれ心の琴線に触れることができたようでした。オーストラリアですから、講義も案内も無論英語ですが、学生達のは完全に理解?!。実は日本語の通訳士が終始同伴。でも、ホームステイ先でも No problem? Body language でコミュニケーションしていったようで、言葉がでなくても短い海外研修で泣き笑いしながら多くを学んだようでした。

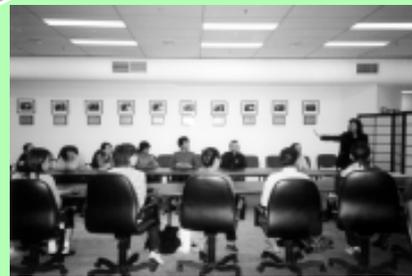


▲TAFE ゴールドコースト校の前で

将江(城間)

オーストラリア・TAFE ゴールドコースト校(クィーンズランド州) 研修活動・ホームステイプログラム(14名)

看護2年	大瀧 英子	看護1年	大野 温美
看護2年	加瀬 淳子	看護1年	中村 悦子(リーダー)
看護2年	木保 真希子	作業2年	小山 智彦
看護2年	鈴木 明子	作業1年	北原 由里加
看護2年	根岸 葉子	言語2年	小林 菜緒美
看護2年	橋詰 良子	言語2年	仲田 響子
看護2年	峯島 和江(リーダー)	放射2年	堀内 杏
引率教員:	言語聴覚障害学科 助教 城間 将江		



▲講義を熱心に聞く学生達

学生海外活動あれこれ



▲カンボジアの不法労働者の子ども達と

海外ボランティア in タイ 海外知見サークル
ヘルスケア・フィリピン・タイドワーク部(海外知見サークル)は海外の保健医療について研究しています。今年の春・夏とNGO・ケアのボランティアスタッフとしてタイでフィリピンドワークを行いました。タイは保健、医療、教育において発展途上で、多くの支援を必要としています。子ども達は教材がなく、教育が受けられません。貧困のために売春を行い、結果タイはアジア一のエイズ国です。このような現状を目の当たりにし、私達にも何かできることはないかと子ども服や教材等の援助物資の収集、募金活動を行っています。ご協力よろしくお願ひします。

(経営三年 蒲生大樹)



▲バヤタに住む子ども達と一緒に

生活の差について思うこと
フィリピンへ行ってみると、お金のある人々は、立派な家を建て、栄養のある食事ができる。一方、スカベンジャー(ごみ拾い)をして生活する人々は、バラック生活。この生活の差を取り除くことは不可能に近い。あるのが、差の縮小は可能なのではないか。貧困者がいるから裕福者もいるという割り切った考え方もある。だが、人間の生活において、最低限の生活の質を向上させることはできるのではないかと考えさせられた。

(福祉三年 竹田千鶴子)



▲会議を終えてIUHWのメンバーと

海外における学生会議に参加して
夏休みの期間中、ポルトガルでのIFM S A(世界医学生連盟の会議と韓国でのAMS A(アジア医学生協議会の会議)に参加しました。韓国の会議には、僕以外にも国際医療福祉大学から理学療法学科二年生が二名参加しました。

ポルトガルではWHO職員の方の講義を聞いた。学生同士で熱いディスカッションを行ったり、韓国では、本格的な学会のような学生の研究発表を聞いた。かぐや姫の話に基づいた日本文化紹介を劇風に行ないました。

どちらの会議にも共通して感じたことは、参加学生の英語能力の高さとパワーの強さでした。これらの経験を通して同じ学生としてがんばるぞとおおいに刺激を受けた学生会議でした。(理学四年 長谷川真人)

海外ボランティア・及び研修に参加された学生さん、引率された先生方、本当にお疲れさまでした。今回参加した学生さんたちの中からきっと国際的に活躍される方がたくさん現れることでしょう。

学科センター便り

看護学科

実習の季節到来

看護学科では、後期実習プログラムの中の先頭を切って、一年生の「生活援助実習A」が九月四日からスタートしました。学生にとっては、現段階における既習の知識と技術を活用しながら、臨床の場面で看護の対象理解に取り組みつつ、初めての体験となるわけですね。

緊張した面持ちの初日から目を追う毎に、学生たちの表情が生き生きと変化していきます。昼休みに飛び交う会話に専門用語がちりばめられるようになり、教員への質問も具体的にのびてきます。学生たちの目には、教室で見せるものとは明らかに違う、途な輝きが出てきます。

看護は実践の科学と言われるように、看護学の知識を持つだけでは人々の役に立ちません。よい看護が実践できる基礎的能力を修得するために、看護を必要としている人々が「生活している場」で、実際に「対象者と関わりながら、我が身を通して」その能力を身に付ける以外に学ぶことはできないのです。学生たちの目の輝きを大切に、我が身を通してこの難しさを一緒に学んで行こうと考えている今日このごろです。

実習の季節は学生にとっても教員にとっても成長の季節なのです。
(坂口桃子)

理学療法学科

オーストラリア海外研修

理学療法学科では、九月六日から十一日までの六日間、一度目のオーストラリアへの海外研修に行きました。参加者は、丸山学科長を団長に教員と四年生合わせて二十五名です。研修目的は、クイーンズランド州グリフィス大学を訪問すること、海外の情報(理学療法国際事情)を肌で感じることでした。

グリフィス大学は、公立大学で全大学数三九校のうち三七校が公立)の一つであり、一九九九年より健康科学部に理学療法/運動科学のコース(学部一年生四十名、大学院一十名)を開設している。陽気な学科長のGeoff先生の説明は、学生からの質問が出るほどやさしく友好的でした。我々も教員研修なんてしてみたいです。

フリータイムでは、ドリームワールドで遊んだり、土管を見たり、乗馬などなど、はしゃぎ回って過ごしました。また、高木理事長には「夏のPhysical fitnessや夜のパーティーで大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。斉藤先生、ツアコンお疲れさまでした。一昨年に引き続き、またちよつと国際人に近づいた気分です。
(黒澤和生)

作業療法学科

LaGuardia Community College学生 Althea Morris らんが実習

モリスさんは七月六日より八月二十二日まで、日本に滞在し、七月十日から八月十八日まで、本学の関連施設で、OT Assistant Programの実習を行いました。マロニ工苑の通所リハビリテーションを中心とした実習を、当学科の教員達の指導のもとで経験しました。特に、activityに関心を持っており、我が国独自のactivityも学び、充実した実習期間を過ごしました。
(久保田清子)

言語聴覚障害者学科

第二回卒業後研究会開催

八月五、六日の二日間、本大学にて言語聴覚障害者学科と同学科同窓会「おあるり会」の共催による第二回卒業後研究会が開催されました。パネルディスカッションでは、「介護保険とSTの役割」というテーマで、新人STの立場から検討したさまざまな意見が提示されました。症例検討会では、在校生からも質問が出され、活発な意見交換がなされました。開催後のアンケートでは、卒業生同士の情報交換や切磋琢磨の場として今後とも続けていきたいという意見が多く出ています。今後とも、在校生、卒業生、教員が協力し、活気ある会を作っていきたいと思います。
(菅野倫子)

放射線・情報科学科

今年の夏の暑さは異常でした。この酷暑の夏期休暇を元気に乗り切れましたか。一年生は感銘を受ける文学小説に巡り合えましたが、二年生は実力をつける最良の日々となりました。三年生は前年同様に臨地実習に入りました。前回は八月二十八日(月)〜十月二十七日(金)、後回は十月三十日(月)〜十二月二十九日(金)の日程です。初めての臨地実習に不安を訴える学生もいましたが、頑張ってきてください。四年生はいよいよ就職活動が本番です。国家試験も残り五ヶ月となりました。頑張りましょう。本学科は来年度入学生を対象に初めてAO入試を採用し、九月に実施しました。
(野原功全)

医療経営管理学科

就職戦線たけなわ

二〇〇一年二十一世紀最初の年の三月、医療経営管理学科でははじめての卒業生を世に送り出します。日本でははじめての学科のためどのような場所就職できるか教員も学生も正直不安があります。今年一月宇都宮で栃木県病院協会(医師会)と共催で医療経営セミナーを実施し、さまざまな就職活動に努力しています。

現時点で(九月中旬)七〇名を越える内定者(希望者)を実現することができました。北海道から九州迄、医療施設からビジネスまで幅広く内定を頂きましたが、もう一歩努力が必要で。

医療福祉学科

実習の夏終わる

今年始めて四年生まで揃った医療福祉学科の「熱い」実習の夏が終わりました。一年生・見学実習
二年生：社会福祉士取得のための約四週間の現場実習
四年生：精神保健福祉士目指す学生は約六週間、社会福祉士取得をめざす学生はさらに約一週間の現場実習

大きな荷物を抱え宿泊実習に臨んだ者あり、日々の通勤に励んだ者あり。教員に引率されて施設デヒューを果した一年生も含め新たな課題を持って秋の学期を迎えました。

一方、教員は昨年より倍増した実習先訪問に取組む暑い夏を終えました。車を駆り来線を乗り継ぎ、四年生のためには遠方までも厭わず、実習生を励ます旅を続けたのでした。(田澤薫)

語学教育センター

秋です！語学の季節です。

「近代オリンピックの始祖クーベルタン男爵がフランス人だったか」と思いますが、アナウンスはすべてフランス語が先でした。面白かったのは、サッカー予選対ブラジル戦の終了後、TV監督がフランス語での質問に、ジャバニースティームOK、ジャバニースティームワンダフル！とあまり上手でない英語で興奮して答えていたことです。開催国オーストラリアに気をつけていたのでしょうか。選手村では選手達が何語で交流しているのかわかりません。

夏休みには外国へ出かけて異文化に触れて、ああもって英語ができたらなあ、と感じた人も多いことでしょう。NPO、NGOなどで、国際的に奉仕したいという若者も増えてきているという嬉しい話も聞きますが、同時に日本人はコミュニケーションがうまくいかないのではと敬遠されることも聞きます。専門の知識や技術を国際的に生かす時代に生きる学生さんたち、今日からでも遅くはない、まじめに語学と取り組みましょう。
(宮尾洋子)

基礎医学研究センター

遺伝子時代の罪と罰

基礎医学研究センターの遺伝学の講義で触

れたことがあるのですが、ヒトとチンパンジーの遺伝子はおおよそ九八%は同じとされています。そのはずで、私達ヒトの先祖は三五〇万年前、今のチンパンジーの祖先から別れてそれぞれ、ヒトとして、チンパンジーとして変異を重ねて進化しました。その進化過程でヒトは、脳がより大きくなる遺伝子変異と他の動物に比べて、寿命が長くなる遺伝子変異を獲得したようです。そうすると、ヒトとチンパンジーでは九十八%の遺伝子が同じで、計算上、千から二千個ほどの遺伝子が特に脳の発達に重要な情報を持つこととなります。この八月にサンクト・ペテルブルグで脳の老化に関連する遺伝子解析の会議があり、判りやすい話で終始したのが、危険極まりない話もありました。ヒトの脳の発達に重要な働きをする遺伝子を取り出して移植すると理論上人間の知能や情緒を持つチンパンジーが誕生します。まさに技術の悪用そのものです。遺伝子時代の功罪を真摯に問わざるを得ません。人間の知能をもつ動物をつくることなど、人類は決して手を出してはいけないことだと思えます。
(嶋田裕之)

健康管理センターだより

センター長交代のお知らせ

健康管理センター長(大学クリニック院長)は平成十一年四月から都築正和(臨床医学研究センター教授)が勤めてまいりましたが、九月一日付けで谷禮夫(が)就任(同教授、前国際医療福祉病院院長)が就任いたしました。

本年の学生健康診断も九月初旬で終了し、現在は教・職員の健康診断を行っています。これは法的(労働安全衛生法など)にも義務づけられており、また私学共済と連携した人間ドックもありますので、ご自分の健康管理については是非前向きにお考えいただくようお願いいたします。
(都築正和、谷 禮夫)

言語聴覚センターだより

言語障害あれこれ(5) 聴覚障害

言語障害が生じる原因は様々あり、聴覚の疾患も主要な一つです。疾患部位や難聴の程度により、内言語・発音・コミュニケーション障害と多様な症状を認めます。

先天性難聴児では、〇、一歳から診断、リハビリを始めます。乳幼児期の難聴は、言語を始め子供の発達全般に深く影響するからです。高齢者の難聴では、コミュニケーションの不自由さから社会参加の意欲の低下にもなり、QOLの低下を招きかねません。

センターでは乳幼児から高齢者までの聴覚障害を持つ方に、各種聴覚検査に基づき補聴器調整やコミュニケーション指導を行います。
(鬼越美帆)

私の研究ノート

人生の転機 1993年

医療経営管理学科 高橋 泰



東京大学の大学院生であった1988年に初めて老人病院で診療を開始、その後私の興味は高齢者医療から介護に移り、高齢者の機能(低下)状態と必要となる介護の関係を調べ始めました。当直の夜、缶コーヒーを3本買い、家政婦のおばさん達にこ馳走し、夜の12時頃から深夜2時3時まで約2年間ほとんど毎週介護や苦勞話を聞かせてもらいました。家政婦のおばさんの経験をデルフォイ法という手法を利用して定量化し、ある高齢者の介護手の係り具合を予測するSFC法という手法を開発し、1992年に「介護の研究」で学位(医学博士)をいただきました。

1992年スタンフォード大学に留学、定量的なデータがないとアメリカの研究者と勝負できないことを実感し、帰国後タイムスタディを決意しました。1993年研究資金も無いところに調査を行うチャンスが巡ってきました。何の保証も無いが「なんとかなる」という

ンスピレーションに従い借金を実行、取り合えず調査を開始しました。結局11施設約600人のスタッフに一人一人に学生を貼り付け、どのような入所者にどのようなサービスを提供しているかの5,700時間分のデータを収集、学生バイトだけでも700人という大規模調査になりました。その結果、借金の額もみるみる膨れ上がり一千万円近くになりました。しかし捨てる神あれば拾う神ありです。同年にパラマウントベッド、清水建設、安田火災、エイザイなどの大企業を集め、明治生命F S研究所が2ヶ月に1回私が3時間講義を行う「介護マーケティング研究会」を発足させ、研究会の会費でこの借金の穴埋めをしてくれました。これが縁で明治生命との共同研究が始まり、今日の「ケアマネくん」につながりました。ほとんど博打のような形のデータを収集、調査のための外泊50日、生活を稼ぎ出すための病院での当直80日、現在の私があるのもこの年の強運とがんばりがあったからだと思います。

リレーエッセイ

栃木マラソン紀行

言語聴覚障害学科 植田 恵



「趣味はマラソンである」というのはちょっと面映いが、こちらへ来てから恥ずかしげもなく大学Tシャツを着ていくつもの大会に出場している。6月の奥日光マラソンは新緑が本当に美しい。11月の大田原マラソンは近所のおばちゃんや学生たちの応援につ張り切りすぎてしまう。12月の黒羽マラソンは大雪に降られる。渡良瀬遊水池のマラソンの商品はきゅうりや米俵である。こんなローカルなマラソンであっても、出場する老若男女は自分も含め、いたって真剣かつ気合が入っており、スタートの号砲が鳴る瞬間の緊張感さはながらオリンピック気分である。しかし、走り出してから5分もすると「あーやっぱり辞めておけばよかった。」と決まって後悔の念に苛まれる。「完走できれば、きっと...。」と自分を騙しながら何とか走り続ける。結局、残るのは翌々日の泣きたいような筋肉痛だけだと分かっているのに、それでもまた走ってしまうのはなぜだろうか。頭を空っぽにしてひたすら肉体を痛めることの快感か?はたまた走り終えた後の温泉の極楽気分か?別に深い理由はなく、「走りたい!」という単純な衝動に突き動かされるだけかもしれない。この単純さが結構すてきなことだと密かに思っている。

次回執筆: 下田信明先生(作業療法学科)

書名: アドルフ

著者: バンジャマン・コンスタン

出版社: 白水社

紹介者: 語学教育センター 萩原茂久

この作品が17世紀の『クレーヴの奥方』と補色的関係を持つことにまず着目したい。後者のヌムール公はクレーヴ夫人をわがものにできなかったが、もし征服したならばその後の運命はどうなっていたか?おそらくクレーヴ夫人が予見したようになったであろう。相手を征服したのちのヌムール公の物語こそ、まさに『アドルフ』一篇であり、作らない関係における勝利と、作ってしまった関係における敗北との対比が、みごとに両作品を特色づける。「関係解消」の小説として、これほど両極性をもった心理分析は類を見ない。

今回ご紹介いただいた著書は、図書館の大谷学長著書の右側の書棚に置きます。是非ご愛読ください。(図書館長)

教員紹介

各学科・センターの教員をご紹介します。

①所属・職位 ②生年 ③出身校 ④専門分野 ⑤直前の勤め先 ⑥主要著書又は論文どちらか1点 ⑦本校における担当科目 ⑧趣味



石川由美子(イシカワ ユミコ)

看護学科・講師
筑波大学大学院博士課程 心身障害学研究科
心身障害学、乳幼児期の保健・発達・教育
筑波大学医療技術短期大学部
絵本を媒介とした母親と子どもの読み活動に関する研究の動向
心身障害児(者)看護論・小児対象特性論・看護過程
-c・研究等 絵本の収集、美術館めぐり等



矢崎真一(ヤサキ シンイチ)

言語聴覚障害学科・助手
1960年8月4日
大阪大学基礎工学部電気工学科
言語聴覚療法全般
亀田総合病院
音楽(ライブが好き。自分でもちょっと演ります。)



梶原敏夫(カジワラ トシオ)

臨床医学研究センター・教授
S23.7.6 慶応大学医学部
リハビリテーション医学
藤田保健衛生大学リハビリテーション医学教室
脳卒中患者に対する障害受容
リハビリテーション概論・リハビリテーション医学
ゴルフ、ドライブ、旅行



樋渡正夫(ヒワタリ マサオ)

大学院 医療福祉学研究科・教授
1949年12月5日
東北大学医学部
内科系のリハビリテーション医学(特に運動時の呼吸・循環・代謝応答)
東北大学医学部
内部障害のリハビリテーション等
リハビリテーション医学、医療福祉学
スポーツ(ゴルフ、サッカーなど)



保坂義雄(ホサカ ヨシオ)

臨床医学研究センター・教授
1950年 東京大学医学部医学科
泌尿器科学
東京大学医学部附属病院分院
Butyrolactone 1 induces cyclin B1 and causes G2/M arrest and skipping of mitosis in human prostate cell lines. Cancer Letters, 138: 121-130, 1999.
泌尿器科学 音楽鑑賞、スポーツ観戦

IUHW クイズ - 第21弾 - 当選者発表

IUHWクイズにたくさんの応募をいただきましてありがとうございます。今回正解者は60名でした。その中から厳選な抽選の結果、糸川咲子さん(作業二年)が当選しました。おめでとうございます。当選者は学生証を持参の上、L棟学生課までお越し下さい。問題:ある夏の日の夕方、雷が落ちて4人の学生の家が停電になってしまいました。彼らは街の東端、西端、南端、北端にそれぞれ部屋を借りて住んでいて、停電した時間を順不同にあげると4時から5時、4時半から5時半、5時から6時、5時半から6時半でした。以下のヒントからどの学生がどこに住んでいて、いつ停電になったのかを答えてください。

- 1, 斉藤くんの住まいは街の北端にあります。
- 2, 井上さんの家が停電になったのは4時からではありません。
- 3, 小林くんの家に電気が戻ったとき、西端の学生の家が停電になりました。
- 4, 南端の家に電気が戻ったとき、工藤さんの家はまだ停電していませんでした。

解答:(a)家の位置 (b)停電した時間

- | | | | |
|------------|---|-----|-------------|
| 1, 小林くん(a) | 南 | (b) | 4:00 ~ 5:00 |
| 2, 工藤さん(a) | 東 | (b) | 5:30 ~ 6:30 |
| 3, 斉藤くん(a) | 北 | (b) | 4:30 ~ 5:30 |
| 4, 井上さん(a) | 西 | (b) | 5:00 ~ 6:00 |

コラム ～夢に向かって～



皆さんは本学に元プロ野球の選手がいることをご存じでしょうか？
今回は元広島東洋カープの選手で理学療法士を目指す望月 一（はじめ）さん（理学療法学科2年）に理学療法士を目指すそうと考えたきっかけや将来の夢などについてのお話を聞いてみました。

- - 望月さんはプロ野球の世界から本学に入学されましたが、そのきっかけはどういうことからだったんですか？
- 望月 私はプロ野球で現役だった頃合計4回の手術を受けました。その時にお世話になったのが理学療法士でした。その後、引退後の進路を医師に相談したところ、理学療法士はどうかと勧められました。その2つがきっかけだったと思います。
- - 本学の雰囲気はどうでしょうか。
- 望月 そうですね。みなさん目標を持っていらっやっや、真剣な方が多いのが非常に印象的です。
- - 理学療法士を目指す上での勉強はどうでしょうか？

- 望月 ええ、正直言って大変ですね。時間的なものというわけではなく、机の上での勉強というものからだいぶ離れていたことと、暗記することが多く、自分の暗記能力が落ちてきているなど実感しています。
- - 卒業後、どのような理学療法士になりたいですか？
- 望月 そうですね、やはりプロ野球の世界で理学療法士としてやっていきたいですね。例えば小さな運動、筋力トレーニング一つにしても選手にその効果、意味を細かく説明できる。そんな理学療法士になりたいですね。
- - 望月さんは一度社会人を経験してから本学に入学されましたが、社会人を経験していない他の学生さんをどう思いますか？
- 望月 私は仕事をプロ野球でしていた頃は19、20の選手と走り回っていましたので、普通の学生さんは僕に対して「おじさんだな」と思っていると思うんですが、私の方からは「すごく若いなぁ」という感覚はないんです。ですが、やはり最初に本学に入ったときは周りの雰囲気緊張しましたね。でも次第になれてくると皆いい人ばかりですので、すぐ仲良くなりました。

望月さん、お忙しい中ご協力ありがとうございました。これからも将来の目標に向かってがんばってください。



サークル紹介 少林寺拳法部

去る6月25日、第11回少林寺拳法北関東学生大会が行われ、福祉大支部からは33名の拳士が出場しました。少林寺拳法には勝ち負けがなく、大会では技を正確にできたか・互いを高め合い、演武を通じて少林寺拳法の素晴らしさを第三者へ伝えることができたかを採点します。大会結果は次のとおりです。最優秀賞 中村丈康（単独演武）、大館美紀・柳原ゆき江（組演武）、五味幸寛・廣澤征浩、優秀賞 斎藤秀樹、鈴木慎吾・鈴木智則、敢闘賞 木下良一・緑川佳恵、来栖光一・豊田陽一、熊谷純久・石渡広輔
(放射2年佐藤郁子)



▲シマウマの砂浴び

ケニアの休日

JICAのケニア医療技術教育教化プロジェクトのため、8月下旬より4週間ケニアのナイロビに赴いた。その滞在期間中の週末を利用してフラミンゴの生息地として有名なナクル湖国立公園（ナイロビから車で2時間半）を訪れたときに動物の珍しい生態を見ることが出来た。一つはシマウマの砂浴び、他はライオンがだらしない格好で木の上で昼寝をしている風景であった。弱肉強食の世界の中で、それぞれの動物がのどかな一時を堪能している様子がほほえましく、見ている人間も心豊かになる一時であった。（細井良三）



▲木の上で休むライオン

編集後記

今回のIUHWは国際的な内容が紙面を占めています。国際的に活躍されている長谷川豊先生・田中美子先生のインタビューから始まり、国際ボランティア、学生の海外研修の記事へと続いています。夏休みを有意義に過ごした証であると思います。大学名にない、より多くの学生が海外で活躍されることを期待しています。（菊地 義信）

I UHWクイズ - 第22弾 -

秋の行楽シーズンになりました。旅行などでいろいろな場所にでかける機会も多くなることでしょう。

そこで今回は地理や鉄道の問題をあげてみたいと思います。

正解を記入したら事務局窓口外側にあるメールボックスへ投入してください。正解者多数の場合は、抽選で1名の方に旅行ギフト券をプレゼント。応募資格は本学の学生で、1人1通、締め切りは11月10日です。

- 問題**
- 1、海岸線の総延長が日本一の県はどこでしょう。
北海道 鹿児島県 長崎県
 - 2、標高500m以上の山がない県はどこでしょう。
沖縄県 千葉県 大阪府
 - 3、日本の市町村の中で最も多い名前は何でしょう。
府中 朝日 大和
 - 4、日本一小さい火山は標高何m位でしょう。
100m位 300m位 500m位
 - 5、JRのカタカナ駅名はいくつあるでしょう。
5つ 7つ 2つ

キリトル

解答用紙	学科	学年
	名前	
解答		
	1	
	2	
	3	
	4	
	5	